

会議を変える： オープンスペースを最適活用し て生産性を最大化



logicool®



オフィス勤務への復帰という出社化の波が企業に押し寄せています。人事システムメーカーである Leapme 社が最近発表したレポートによると、人事担当者の56%が、出社の義務化を CEO から迫られていると回答しています。また、Resame Builder の調査からは、企業の90%が、2025年に何らかの形で出社の方針を導入する予定であることが分かりました。

しかし、多くの組織は、戻ってくる社員のためのオフィススペースが足りないことに気づき始めています。

「米国政府職員はオフィスへの復帰を命じられたものの、デスク、PCモニター、駐車場、さらにはトイレトペーパーの不足に直面している」と NPR は報じた。一部の米国政府職員はスペースの制約により、オフィスではなく倉庫に出勤するよう命じられていることにも触れています。

Amazon も、単純にデスクが足りないという同様の理由で、出社命令を延期しました。Amazon のサンフランシスコ地区のオフィスでは、デスクが約800席分不足していると報じられました。

物理的なスペースが限られているなか、従業員は、以前と同様のオフィス内のストレスに再び悩まされるのではないかと、懸念しています。その最たるものが、空いている会議室を見つけて予約できないことで、延々と続く会議室探しが生産性を低下させることです。従来のやり方を見直し、会議室の予約が取りにくいという問題の解決につながる新たな方法を見つける必要があります。多くの場合、解決策はオープンスペースでの会議にこそあります。

本資料では、オープンな会議スペースの主なメリットと課題について説明し、より多くのオープンスペースでの会議に対応できるようオフィススペースを最適化するための提案を行います。

オフィス内会議の落とし穴

会議スペースに関する従来からの問題とは何でしょうか？

Steelcase 社のレポートによると、**従業員の40%は1日平均30分**を、空いている会議室や共同作業のためのスペースを探すことに費やしています。また、Gensler Workplace Research 社の調査によると、柔軟で適切に管理された会議環境を持つ職場では、常に運用上の課題に直面している職場よりも、**従業員の生産性が23%高い**と報告されています。

適切な会議スペースが見つからない場合、会議はキャンセルされたり慌ただしく行われたりすることが多いため、コラボレーションの質が低下します。従業員の時間のおよそ37%が会議に費やされている現状では、予定されたコミュニケーションやコラボレーションの時間を最大限に活用することが不可欠です。

オフィススペースの有効活用ができていないことは、企業の収益にも悪影響を及ぼしています。Gable 社の調査によると、**オフィススペースの40%が日常的に使用されておらず**、不要な経費が生じています。また、オフィススペースの使い方に無駄がある場合、**従業員1人当たり年間11,000ドルの余計なコストがかかってくる可能性**があることも指摘しています。

では、組織がこの予算を圧迫する事態から抜け出すためには、どうしたらよいのでしょうか？



オープンスペース活用のメリット

企業がオフィススペースを有効活用し、慌ただしい会議室探しによる生産性の低下を解消するひとつの方法はオープンスペースを積極活用することです。会議にオープンスペースを活用することで、企業は以下のような戦略的メリットを得られます。

コラボレーションとコミュニケーションの強化

オープンスペースは臨時の会議、ディスカッション、ブレインストーミングなどが行いやすく、チームメンバーが即興的に交流できる機会を提供します。従業員は個人ごとに区切られたオフィスとは違い、邪魔になる仕切りがないため、アイデアを簡単に共有でき、イノベーションの促進と問題解決の迅速化につながります。

企業文化の促進

オープンスペースで会議を行うことによって、上下関係の壁を取り払い、従業員間に平等意識や一体感が生まれます。それが、信頼関係の醸成やオープンなコミュニケーションを促し、企業文化の強化につながります。従業員の声をしっかりと汲み取るために、定期的にアンケートを実施し、問題点を把握して会議の予約システムやオープンスペースでの会議の方針を適宜見直していくことをおすすめします。

費用対効果

オープンスペースは、個室、会議室、パーティションで区切られたスペースを構築するよりも経済的です。オープンスペースは工事費や資材を節約できるため、リソースを他の分野に割り当てられます。

より良い採光と雰囲気

窓のないことが多い会議室をオープンスペースにすることで、自然光を最大限に活用し、より快適で心地よい雰囲気を作り出すことができます。[Business Insider](#)によると、自然光を浴びることで、従業員の気分と生産性が向上します。

柔軟性と適応性

オープンスペースは、さまざまな規模や目的の会議に合うよう簡単にレイアウトを変更できるため、柔軟性の高いコラボレーション用のスペースを必要とする企業にとってメリットがあります。

業務内容に応じた働き方

オープンな会議エリアは、従業員が自分の業務に適した作業環境を選ぶことができる、業務内容に応じた働き方を促進することができます。これにより、従業員は自分の業務ニーズに最も適した環境を選べるようになり、従業員の満足度や効率性、生産性が向上します。



中断の回避

オープンな会議スペースにはメリットが多いものの、課題がないわけではありません。

オープンなオフィススペースで会議を行うことによって、組織によっては運用上の課題が生じる場合があります。オープンスペースはコラボレーション、柔軟性、即応性を促すように設計されていますが、うまく活用しないと、結果として生産性が低下する場合があります。

オープンスペースで会議を行う際の主な課題

ノイズによる中断

周囲の喋り声、電話の音、その他の雑音は集中力を妨げ、会話をかき消してしまうため、会議の参加者が集中したり発言したり、コラボレーションを行ったりすることが難しくなります。

プライバシーの欠如

機密や社外秘の事項に関する会議や会話が立ち聞きされてしまうリスクがあります。

中断

意図的かどうかにかかわらず、オープン環境での会議中、通りかかる人によって邪魔が入る可能性があります。

スペースの不足

オープンスペースは臨時の会議用に設計されているため、時にはすべてのスペースが使用中で、会議を開催できないことがあります。

ツールの欠如

オープンスペースでは、ホワイトボード、プロジェクター、ビデオ会議ツールなどの必要な会議ツールを利用できないことが多く、コラボレーションや生産性に影響が生じる場合があります。

オープンスペースでの会議には課題がいくつかある一方、得られるメリットは代えがたいものです

オープンスペース の最適化

オープンスペースを最適な会議スペースに変えることで、活用されていなかったスペースを、コラボレーションと生産性を促進する活気ある拠点に生まれ変わらせることができます。でも、どこから手を付ければよいのでしょうか？



会議用のゾーンを区切る

オフィスのどのオープンエリアが会議に最適で、どのエリアが個人の作業ゾーンに最適かを見極めます。こうすることで、会議参加者と、静かに作業をしようとする近くの同僚の双方にとっての迷惑を軽減できます。

まずは、オープンエリアに半個室的なスペースを作ることから始めます。移動可能なパーティションがあればそれを使い、ソファ、椅子、テーブル、スツールなどの備品を配置して、大まかに区切られたコラボレーションゾーンを形成します。会議が可能な場所を示すために、掲示物や床の表示といった視覚的な標識を用いることも有効です。

可動式家具、折りたたみ式テーブル、調節可能な座席などを使用することで、会議の規模や人数に応じて再配置可能なスペースを確保することもできます。また視界や通行を遮ることなく視覚的にエリアを分けるためにオープンラックを間仕切りとして使うことも検討してください。

防音ソリューションの利用

防音パネルや吸音材などの使いやすいソリューションで、周囲の騒音を低減し、会議中の集中力とコミュニケーションを向上させましょう。カーペットやマットでも音を吸収することができます。さらに、デスクトップ用の遮音パネルやホワイトノイズマシンなどのノイズキャンセリングテクノロジーの利用も騒音を低減するのに役立ちます。

行動基準を設定する

ガイドラインや会議マナーの推奨事項を導入することで、オープンスペースでの会議を周囲に迷惑をかけることなくスムーズに進行させることができます。ガイドラインには、音量調整、中断の回避、および会議中の通知のオフなどを規定することができます。近くで会議が行われている場合でも、他の従業員が集中できる静かなゾーンを設定することもできます。

オープンエリアでの会議を実施できる時間枠をスケジュールで設定することで、他への迷惑をさらに減らすことができます。従業員が主要な会議スペースを予約できるようにして、臨時の小規模会議をあらかじめ決められた時間枠に集約するよう推奨してください。

テクノロジーの活用

オープンスペースの課題のひとつはテクノロジーの不足ですが、コラボレーションや生産性を促進する会議に対応できるよう、オープンスペースをより柔軟性の高い、即応可能なものにする新しく便利なテクノロジーソリューションも登場しています。

デジタル ホワイトボード、プロジェクター、最新のプレゼンテーションキットなどのソリューションが不可欠であり、会議が想定されるエリアでは、信頼性の高い Wi-Fi とすぐに利用できる電源の確保も重要です。



Rally Board 65の導入

オープンスペースを優れた会議エリアに変え、組織がスペース関連の課題を克服できるソリューションの1つが、ロジクール Rally Board 65です。このポータブルな一体型のコラボレーションデバイスによって、あらゆるオープンスペースを本格的なビデオ会議室に変えることができます。65インチのタッチスクリーンディスプレイを搭載した Rally Board 65を導入すれば、あらゆる場所でのコラボレーションが可能になり、創造性を発揮できます。

AI を活用した音声と映像機能により、あらゆる会議環境で最適なフレーミングと極めてクリアな音声をお届けします。混雑したオープンスペースでも、AI によって背景の動きをぼかし、周囲の環境雑音を抑え、音声のバランスを整えることで気が散る要因や妨げを排除します。そのため、リモートからの参加者は集中しやすく、一体感を得られます。Rally Board 65は、壁への取り付け、テーブル上への設置、移動式スタンドとの組み合わせが可能で、オープンスペースと会議室間を簡単に移動させ、あらゆる場面のニーズに応えます。

Rally Board 65は、セットアップが簡単で使いやすいため、組織は、オープンスペースにおけるツールやテクノロジーの不足というよくある課題に対処できます。スペースに搬入して接続し、最小限の設定を行うだけで準備が整います。



Rally Board 65は、オフィスのオープンスペースに多くのメリットをもたらします。

オープンスペース向けに調整されたパワフルなスピーカーシステムで、クリアでバランスの取れた音声を参加者全員にお届けします。

AI駆動のアルゴリズムと連携する高度なマイクアレイにより、不要なノイズが除去され、音声をクリアに捉えます。

Rally Board 65はオープンスペース内のあらゆる場所に自由に移動させて、立ったままでの会議や急なコラボレーション、あるいは定例会議に活用できます。

オーディオ、ビデオ、ディスプレイを一台にまとめた一体型のシステムであるため、追加の機器は不要です。

設置や操作時に IT サポートをほとんど必要とせず、素早く簡単にセットアップできます。プラグ&プレイに対応しています。

65インチの応答性に優れたタッチスクリーンで、ブレインストーミング、チームでの取り組み、双方向の討議をスムーズに促進します。

Rally Board 65を回転させると、カメラの位置が画面の上部にも下部にもなり、柔軟性が向上します。これにより、参加者の目線の高さに合わせることができ、誰もが会議に参加していると実感できる会議が実現します。



Rally Board 65のような一体型ソリューションを使用すれば、組織は使われていないオープンスペースを活用して最適化し、これがないと従来は実現が難しかった、協力し合えて誰もが参加していると実感できる会議を実現できるようになります。オープンスペースを実用的で利用価値の高い会議スペースに生まれ変わらせることで、最終的には費用を節約し、生産性を向上させることができます。

logicool for business

www.logicool.co.jp/business

右記のリンクからお問い合わせください。

購入前のお問い合わせ：

株式会社ロジクール
<https://www.logicool.co.jp/ja-jp/business/contact-b2b.html>

購入後のお問い合わせ：

株式会社ロジクールカスタマーリレーションセンター
<https://prosupport.logi.com/>

©2025 Logitech, Logicool. 株式会社ロジクールは、Logitech Group の日本地域担当の日本法人です。ロジクール、Logicool およびそれらのロゴは、Logitech Europe S.A. および/または米国およびその他の国における関連会社の商標です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に含まれる製品、価格設定および機能情報は、予告なく変更される場合があります。

発行：2025年6月